

令和8年度 第2回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和8年8月24日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第2回 総合教育会議				
日 時	令和8年8月24日（月）午後3時00分～4時15分			
場 所	市役所東館4階 政策会議室			
構成員	長坂 尚登	市長	原田 憲一	教育長
	内浦 有美	教育委員	渡辺 嘉郎	教育委員
	中島 美奈子	教育委員	西島 豊	教育委員
事務局	石川 和志	教育部長	伊丹 浩之	教育監
	山本 誠二	財務部長	角野 洋子	企画部長
	鈴木 大介	財政課長	木全 功	教育政策課長
	夏目 裕介	学校教育課長	太田 一郎	教育会館長
	多米田 悟司	公共施設再編室長	鈴木 薫	保育課長
その他	傍聴人 11名			

議 事 日 程

□協議事項

1 学校規模の適正化について

□連絡事項

次回開催日程 令和8年11月9日（月）14:00～

(教育部長)

ただいまから、令和8年度第2回豊橋市総合教育会議を開催いたします。お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日の協議事項は、「学校規模の適正化について」です。それでは、資料1を事務局から説明してください。

協議事項

1 学校規模の適正化について

■教育政策課主査 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、説明に対する皆さまのご意見などをお聞かせいただければと思います。

(渡辺委員)

現状では、校区への丁寧な説明や意見交換が行われていると思います。

教育委員会には、複式学級になるのであれば統廃合を進めていくという方針があります。複式学級は子どもたちの教育環境として望ましいものとはいえないと思います。豊橋市の教員は、複式学級の授業経験がないので、複式開始当初は手探りな部分も生じると思います。こうしたことから、複式学級になる前に教育環境を適切に整えていく必要があると思います。

また、校舎等の老朽化に伴い建て替えの時期が迫っているという状況もあります。学校の長期的な維持管理という点からも、適正化を喫緊の課題として捉え、市の考え方を自治会や住民の皆さんへの説明し、前に進めていくことが大切だと思います。

(中島委員)

今回の事例は、他の地域の参考事例となるため慎重な議論が必要だと思います。

一番は、子どもにとって最善の環境が何かを優先に考えるべきです。個別最適化され多様性のある学びの場の提供が望ましいと思います。

子どもたち同士がお互いに刺激を受け、揉まれ合うことが大事だと考えると、児童数が減少し、友人関係も限られクラス替えもできないとなると、多様性のある学びの環境という点で懸念があります。資料にもありましたが、人数の少ない幼稚園・保育園から、人数の多い小学校に行くことを心配に思う保護者がいることも考えると、幼保の適正化についても考えていくことが必要だと思います。0歳から15歳までの新たな豊橋の教育モデルができれば、保護者も安心して子育てや教育ができると思います。

(西島委員)

適正化の判断材料や構想案は多いほど良いと思います。地域との話し合いの中で双方が納得いく着地点を見出していくことが理想ですが、複式学級開始までのリミットがある中で、我々としてもある程度の方向性を見出していかなければいけないと思います。

複式学級が教育環境として問題なければ、全国的に学校規模適正化が問題になることはないわけで、やはり複式学級の先生や子どもたちの授業負担を考えると、可能な限り、複式学級を回避する方向で考えていくことが必要だと思います。豊橋全体で児童生徒数が減少する中、一定程度、豊橋市としての考え方も示しながら、地域との話し合いを進め

ていかなければならないと思います。

(内浦委員)

児童生徒数の減少と規模適正化の問題は、先延ばしできない時期に来ていることは間違いありません。その上で、保護者や児童の本音が拾えているかという点は不十分に感じます。教育や教育環境に求めるニーズが多様にある中で、例えば、校区外通学を柔軟に認めるなど、保護者や児童が学習環境を選択できる体制を整えることが大事だと思います。

幼保を含めるかは分かりませんが、石巻地区での義務教育学校という適正化手法は、現在の5つの小学校の良さを持ち込むことができる、クリエイティブな発想だと思います。

他市町村でも義務教育学校を設置している事例はありますが、豊橋でも特色ある学校が集まった魅力的な学校を考えることができるのではないかと思います。

(原田教育長)

複式学級になる時期が迫っています。資料にもありますが、豊橋市としての考え方を校区に示していく必要があると考えています。教育委員会の視点が3つある中で、1つ目の「真に望ましい教育環境」を考えた時、少人数学級のメリットはあるものの、人間関係の固定化や多様な考え方に触れる機会の減少、クラス替えの有無を考えると学級規模は重要です。

石巻地区の5つの小学校の、令和13年度の予測児童数を合わせると405名になります。これは、現在の松葉小学校と同等の規模です。現在の松葉小学校の児童数は、市内52の小学校のうち上から約20番目で各学年は2クラスか3クラスあります。こうした環境は子どもたちにとって望ましい学習環境だと思います。

教育委員会の構想としては、石巻地区に義務教育学校を設置できればと考えています。この義務教育学校については、2つ目の視点の「地域コミュニティの核」としての機能を考え、現在の各小学校施設の一部を残したいと考えています。日中は1つの義務教育学校で学び、放課後は元々の学校で地域教育活動を展開することで、豊橋の新しい教育の形を創っていきたいと思います。

通学方法も検討する必要がありますが、朝、元々の学校に集まってスクールバスで義務教育学校に登校し、放課後は元々の学校へバスで下校するということができればと考えています。保育園や幼稚園のことも資料にありましたが、未就学児童についても複合化ができれば、子どもたちの多様性がより確保できると考えます。この他にも、くすのき特別支援学校の分校的機能を持たせることも考えられます。莫大な予算が必要であることは承知していますが、ぜひ市長にも考えていただいて、豊橋市としての考えを校区の方々に示していきたいと考えていますので、ご意見をお聞かせいただければと思います。

(長坂市長)

今回の資料に記載されている、意見交換会への参加者規模の拡大やアンケートの検討、適正化の手法毎に要する費用や時間の共有については私も必要だと思います。今、教育長から具体的な構想について意見を伺いまして、このことについては精査する必要がありますが、各地域において説明いただければと思います。

資料では、嵩山・賀茂での意見交換会で3つの適正化手法が示されていますが、3つ目の義務教育学校しか選択肢はないのではないかと思います。

1つ目の複式学級は、授業準備も含めて先生の負担は大きいと思いますし、2つ目の近隣の小学校との統合についても小規模校同士の統合がどこまで現実的かということを考える必要があります。

1つ事務局に確認ですが、特認校が利用できる校区の方も他の校区に特認校制度を利用して通学することはできるのでしょうか。

(教育部長)

それは可能です。

(渡辺委員)

北部地域以外で意見交換会は行ってはいないのでしょうか。

(教育部長)

行ってはおりません。

(渡辺委員)

複式学級になるかに関わらず、教育施設の老朽化は豊橋全体の問題であるため、この観点からも適正化を展開していく必要があると思います。

(長坂市長)

今後、校区の方から適正化について要望が出された場合についても備えが必要だと思います。

(原田教育長)

義務教育学校のメリットを生かして、今までの教育では実現が難しかった教育環境を整え、子どもたちの発達段階に合わせた、豊橋の特色ある教育を地域とともに展開していきたいと思います。

(教育部長)

ほかに何かありますか。それでは最後に、市長にお願いしたいと思います。

(長坂市長)

本日は、忌憚のない意見をいただき、また活発な議論をありがとうございました。適正化の今後については、資料に記載されている内容と教育長が述べられた義務教育学校について地域に説明していただければと思います。次回もよろしくお願いいたします。

連絡事項

- ・次回開催日程 令和8年11月9日(月) 14:00～

(教育部長)

以上で、令和8年度第2回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。